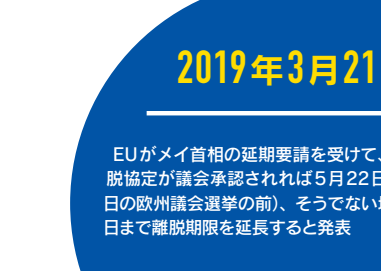
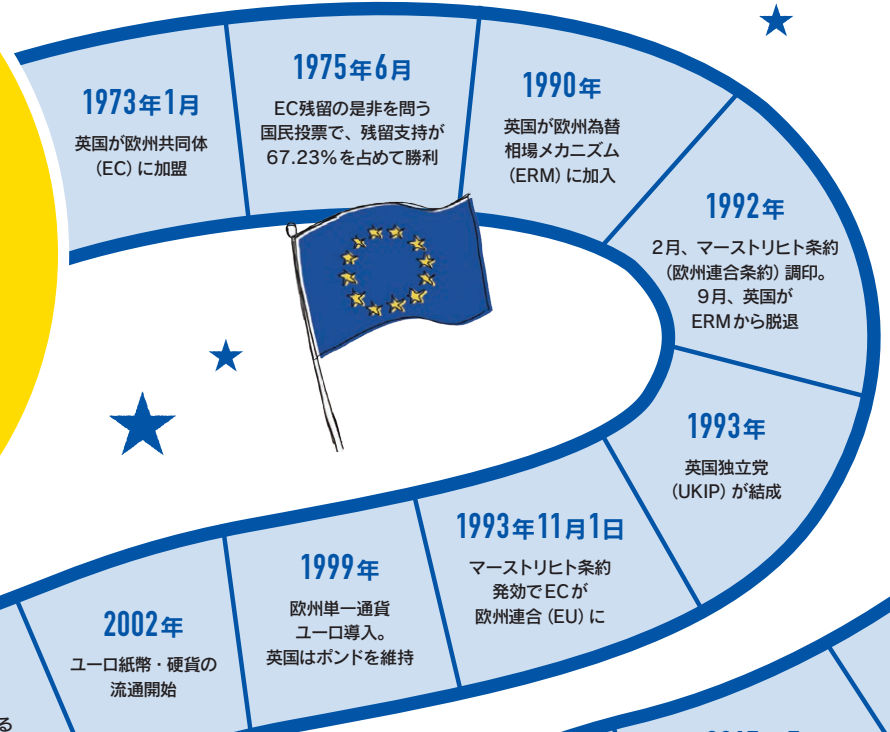


なかなか上がれない...

# BREXIT すごろく

英国がEUの前身となるECに加盟したのは46年前。  
EUの単一通貨ユーロを導入せず、国境検査を必要としない  
シェンゲン協定にも加入しない独立歩道の道を歩んできた英国は、  
果たして「離脱」という「上がり」に到達できるだろうか。

## START!



# GOAL...??

**2013年1月23日**

2年後の総選挙で保守党の単独過半数獲得を狙うキャメロン首相は、保守党が勝利したら、17年末までにEU離脱の是非を問う国民投票を行うと公約。東欧からの移民増加、07~08年の世界金融危機による負の影響、11年のユーロ危機を救うための財政支出などの結果、一部の英国国民や議員に反EU感情が高まっていた

党のことだけを考えた安易な決定が不評で振り出しへ戻る

**2019年3月12日**

英政府とEUが取りまとめた新たな離脱合意案を下院が否決。この合意案は、北アイルランドの国境問題を解決する「バックストップ」が一時的なものであることを入れた点で「新たな」離脱案とされた。

下院による否決で1つ戻る

**2019年9月4日**

離脱の3カ月間の再々延期を求める法案を可決。10月19日までに、首相がEUとの離脱協定、あるいは、合意なき離脱について下院で承認を得ることができなかった場合、来年1月31日までの延長をEUに要請することを義務化。首相による総選挙前倒し法案は否決

法案可決で喜び3つ進む

**2019年10月2日**

ジョンソン首相が離脱最終案を提示。バックストップ案の代わりに、「北アイルランドは離脱後も農産品や工業製品の規格などでEUの規制に従う」、「規制適用の判断は北アイルランド議会が担う」、「関税ルールは、関税同盟を抜けた上で、北アイルランドを含む英国として統一」、「税関検査は国境周辺を避ける」など

問題をほらむ最終案に頭を抱えて2回休む

**2019年10月31日**

英国のEU離脱予定日

GOAL...??



**2016年6月23日**

EU離脱の是非を問う国民投票が行われ、離脱支持が51.9% (1741万742票)、残留支持が48.1% (1614万1241票)となり、僅差で離脱派が勝利した。残留キャンペーンを主導したキャメロン首相が、同24日に辞任を表明

頭を冷やすために3回休む



**2018年11月25日**

英政府とEUが離脱協定案と政治宣言案に合意。協定案では「北アイルランドとアイルランド共和国の国境に関税を設けない」、「移行期間中に通関問題が解決しない場合、英国は関税同盟に事実上残留」、「未払い分担金の支払い」、「EU市民に対する権利保障」など。政治宣言案では英国とEUの協力を旨とするなど

一応合意したので2つ進む



**2017年12月8日**

メイ首相と欧州委員会のユンケル委員長が離脱条件で基本合意したと発表。「北アイルランドとアイルランド共和国の間に物理的な国境は設けない」、「英国在住のEU市民の権利を保障」、「未払い分担金を支払う」など。同15日、貿易協議を含む「第2段階」の交渉に進むことをEUが首脳会議で決定

とりあえず話が進んだので1つ進む

**2018年3月19日**

2020年12月末までの「移行期間」導入で暫定合意

**2018年7月6日**

首相の別荘「チェッカーズ」に集まった閣僚らは、離脱後もEUとの貿易や人の移動などについてEU規則との協調継続を受け入れる提案について合意する (「チェッカーズ合意」)。同8日、親EU過ぎるという理由からデービッド・デービス離脱相が辞任。9日、ジョンソン外相も辞任。12日、政府は離脱白書を発表

白書を発表して疲れたので1回休む

**2019年10月31日**

英国のEU離脱予定日

GOAL...??

